

水や下水道のすばらしさ

山口 きこ

基山町立基山小学校

今日は小郡市の三国ヶ丘から、宝満川浄化センターの方が来てくださり、水の大切さや、下水道の役わりなどを教えてくれました。

わたしは今まで、流れた水はそのまま、下水道にいつて、どこかにすてられると思っていただけけれど、お話を聞くと、ぜんぜんちがいました。

今、社会で勉強している水のことは、ダムや、浄水場などのせつびはどのような事をしているのかを勉強しています。でも、宝満川浄化センターの方のお話しでもっと水や下水道の事を知ることができて、よかったです。

まず、最初にお話しされたのが水と地球の関係です。地球の表面の70%は水でできています。地球の水はいっぱいあるけど、使える水は少しだけなんだそうです。

次にお話しされたのが使われた水は、そのあと、どうなるのかです。

集められた水は、公共污水ます↓マンホール↓ポンプ場↓管きよ↓沈砂池↓最初沈殿池↓反応タンク↓最終沈殿池↓消毒をして、宝満川に流して、またいろいろところで使われて、また集められてのローテーションです。

マンホールは、下水管のそうじや修理のために作られている出入口

です。ポンプ場は、流れが深くなった汚水をくみ上げる施設です。管きよは下水を運ぶパイプです。沈砂池は汚水中の大きなごみや土砂を沈めてとり除きます。最初沈殿池は、汚水をゆるやかに流して、小さなゴミや泥を沈めます。反応タンクは、汚水に微生物の入った活性汚泥を混ぜ、空気を吹き込んで、よごれを沈みやすくします。最終沈殿池は、反応タンクで大きなたまりになった泥を沈め、上ずみを流します。

それから浄化センターの方と3つの実験をしました。1つ目は流入水、処理水のみためのちがいの実験をしました。けっかは流入水がよごれていて、処理水がきれいです。2つ目は色のちがいの実験です。けっかは、流入水の色は20（緑）で処理水の色は0（むらさき）でした。3つ目の実験はトイレトペーパーとティッシュペーパー、どっちがよくとけるのかの実験をしました。けっかはトイレトペーパーの方がよくとけました。トイレトペーパーは紙がほとんどとけていて、ティッシュペーパーはほとんど全部のこっていました。この実験をして、とけないものを水に流すと水が使えなくなるから、みんなできよう力する事で水がきれいに安全に使えるんだなと思いました。

もし、下水がなかったら、水が汚れたままで、水が使えなくなっただろうなと思います。だから、下水処理場の方にかんしゃするのが大切だと思います。

この学習をして、わたしは、水や下水道、よごれた水がきれいになるまでの事などいろいろな事を知れて、うれしかったです。

この事を家族に言ったらおどろくと思います。